

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 1月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500109		
法人名	社会福祉法人 政樹会		
事業所名	グループホーム呉ベタニアホーム長迫		
所在地	呉市長迫町10-3		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>社会福祉法人政樹会は、1997年9月、呉市及び近郊のキリスト教会が高齢者のために、キリストの愛で仕えたいという祈りとミッションを持って設立され、2007年4月には呉市長迫の地に私共グループホームを設立する事ができました。様々な困難がありましたが、その時々には最善の道が開かれ、現在に至っております。これからも、ご高齢者の人生の締めくくりに、職員を大切に、愛された職員はご利用者を大切にする。その様なケアをして行きたいと願っております。ベタニアに関わった者すべて「ベタニアに出会えて良かったと思える」出会いの場所となれば幸いです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム呉ベタニアホーム長迫（以下、ホーム）は、入居者の在宅生活から入居に至るまでのプロセスを職員全体で共有し、「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」の理念に沿って支援されています。法人が運営する「地域相談センター」は、認知症の家族や地域住民が抱える介護に関する不安や負担についての相談窓口として、きめ細かなアドバイスを発行しておられます。ホームでは、入居者に対する精神面の支援を大切にされ、認知症ケアの専門知識を持つ職員を中心に、尊厳ある対応に努めておられます。暮らしの中で入居者が、役割や生きがいを実感でき、機能維持に繋がるよう支援されています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	高齢者が人生の締めくくりの時にベタニアに出会って良かったと思われるケアをする事。職員も専門性を発揮し、ベタニアで働いて良かったと思えるような職場にしていける事を目指している。内部研修会等で理念を共有し、どの様にその理念を現場で活かしていくか話し合っている。	職員は、裏面に理念を記載した名札を常に身につけています。入居者一人ひとりを尊重し、「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」の理念を実践されています。また、月1回のミーティングでも共有されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	積極的に地域の方との挨拶を敢行し、地域に溶け込むようにしている。また、地域の方に花や着なくなった衣類やおむつ等を頂いている。	外出時には、地域住民との挨拶や会話が自然に交わされ、地域住民から支援に活かして欲しい気持ちが寄付という形で届けられています。地域住民が相談に来所することもあり、ホームとしてできることを通して交流が始まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者に必要であるが、地域の高齢者にとっても必要と思われたので、坂道の道路に手すりをつけてもらった。また、玄関前にいつでも見学や相談が出来る様にポスターを掲示して、訪問者が施設に入りやすい環境を整えようと努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を行い、利用者のサービス状況等を報告している。参加者からの質問や意見はサービスに反映させ、サービス向上に努めている。	自治会長など地域代表が加わり参加メンバーの間口を広げていくための取り組みが実現しています。会議では、ホームの取り組みの報告にとどまらず、災害訓練の呼びかけも行われています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	質問・報告等、機会があれば市町担当者に連絡している。	認知症アドバイザー資格を持つ職員が、市が実施する地域住民向けの認知症理解講座に、講師として協力されています。運営に関して疑問があれば質問するなど、日頃から行政との協力関係を築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部研修を設けたり、職員同士の声かけを行うようにしている。玄関の施錠については、夜間と日中も場合により施錠する事も有る。</p>	<p>認知症ケアの専門知識を持つ職員を中心に、入居者の精神面でのケアに努め、落ちついた気持ちで穏やかに過ごせるよう支援されています。職員は、拘束の事例をもとに話し合う機会を設け、拘束のない支援に取り組まれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内外部研修において、虐待に関する定義や行為等を学習する機会を設けている。また、玄関前に制度に関する説明文書を掲示している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内外部研修において、制度に関する学習をする機会を設けている。また、玄関前に制度に関する説明文を掲示している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解約の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情受付窓口の設置は、契約時に説明し玄関前にも閲覧できるようにしているまた、玄関前にも意見箱を設置し、自由に意見を述べてもらえるようにしている。</p>	<p>意見箱の名称を質問箱に変更し、質問を意見として受け止め、運営に反映されています。また法人が運営する地域相談センターでは、地域住民だけでなく家族も相談しやすいように環境が整えられています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的にミーティングを開き、職員の意見を聞く機会を設けている。また、提案書を持って職員より提案する機会を設けている。</p>	<p>職員は意見や気づきを、質問ノートや提案書に記録されています。気づきの中から見える課題を整理し、ホーム全体のケアの質の向上に活かされています。また、良質な提案は高く評価され、職員の働く意欲につながっています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人相談を年2回以上して、職員個人が抱えている悩みを聞く機会を設けている。また、目標管理シートを使用する事で、職員個人の目標を設定して、それを上司がサポートしながらキャリアアップ出来る様にしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修では、初任者・中級と段階を踏んでの研修を行い、外部の研修には積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修や姉妹法人との共同研修会で、サービスの質を深める努力をしている。また、外部の施設職員の研修を受け入れ、サービスの向上に努めている。</p>		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>出来るだけ多くコミュニケーションを取ったり、新規利用者の情報を職員間で確認している。自宅に伺い、話の場を作り、利用者が話しやすい環境を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前は家族からも情報収集を行い、入居後の生活に反映出来る様にしている。また、気になる点等は報告し、早期解決に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>同法人居宅や小規模のケアマネジャーと共に相談しながら、本当に必要なサービスを提供出来る様に心掛けている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一人ひとりに無理のない範囲でできる事はしていただいている。また、職員も一緒に作業しながら、対話の時間を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者の施設での近況を細かく家族に伝える様に心掛けている。家族にも施設に来ていただく等して、話し合う機会を持っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>時々自宅や家族の家に外出等行っていけるよう、計画を立て実施している。また、付き合いのあった近隣の方の訪門を積極的に受入れている。</p>	<p>入居者は、法人が運営するケアハウスの行事に出かけ、馴染みの人と交流されています。また、併設の小規模多機能事業所の利用者とは日常的に行き来しており、顔馴染みの関係があります。家族の協力を得て、一時帰宅をする入居者もおられます。いつでも自由に面会でき、入居後も友人や知人との付き合いが途切れないよう支援しておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>体操・レク等で小規模の利用者とも交流する機会を持っている。利用者同士の関係がスムーズに形成されるよう、会議等で職員の見解を集め、検討している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>サービス利用が終了した後も、ご家族の相談にのる等して経過をフォローしている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人の言葉に耳を傾け、行動や表情からも思いを汲み取れるよう努めている。また、家族が来られた時は、日常生活ぶりをお話し、意見を伺っている。</p>	<p>入居者一人ひとりの思いを受け止めた支援ができるよう、見守り、観察を徹底し、意向の把握に努められています。また、支援の成功事例を記録し、職員が共有しています。家族からも継続して聞き取りを行い、思いの把握に努めておられます。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居時に細かいアセスメントを実施するだけでなく、日常の会話からもこれまでの生活について把握し、インフォメーションシートにまとめて、共有している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>介護日誌やケースファイルの日々の記録を中心に、朝礼・夕礼その他口頭での申し送り等を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のケアプラン会議で本人の声を尊重したケアや課題について検討し、家族にも来所時にその内容について話し合い、助言をいただいている。ケアプラン会議前には、事務所ホワイトボードに職員の意見が書ける仕組みをとり、会議に参加できない職員の意見も汲み取ることが出来る。</p>	<p>介護計画は、ケアマネジャーが作成した原案に沿って、入居者の思いや家族の意見を反映させながら、全職員が意見を出し合って作成されています。家族の訪問時に希望や要望を聞き、介護計画の説明も適切に行われています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録・ケースファイル・質問内容記入表・家族連絡ノート等に細かく記入し、ケアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>小規模多機能ホームと共同しながら、幅広く柔軟に支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>毎月2回、絵手紙の先生に教室を開いていただいたり、ボランティアでマッサージを依頼している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師による判断で、かかりつけ医の受診や、月に2～3回の往診を行っている。また、かかりつけ医との連絡を密にしている。</p>	<p>看護師による健康管理が行われています。状況に応じて、月2回～3回協力医の往診があります。専門医の受診は、家族の協力を得ますが、緊急時や健康診断はホームで対応されます。かかりつけ医の24時間対応により、緊急時や夜間の体制が整っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	非常勤で看護師を置き、医療との連携を図っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	退院後の受け入れ体制を取ったり、病院とのコーディネートを行うようにしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	現在は具体的な取り組みは行っていないが、外部研修や職員に「死生観」について、ミーティング等で話し合い、終末期についての考え方を深めようとしている。特に高齢の入居者様には、本人・家族と終末期のあり方について相談を行った。	重度化した場合や終末期ケアを踏まえた研修を行い、意識徹底を図られています。可能な限りホームでの暮らしを希望する入居者や、家族の気持ちを受け止めた支援ができるよう、体制づくりを進めておられます。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアルを作成し、定期的に研修等を行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	近隣に協力の呼びかけと、消防署と連絡を取り、防災訓練を定期的に行っている。また、呉警察署と災害時の事について入居者・職員避難先等について確認を行った。	災害に備えた訓練を消防署の助言のもとに行っておられます。地域に協力の呼びかけや、災害時に地域住民を受け入れる体制も整え、ホームの所在地を活かしてできることに取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報への扱いは慎重に行っている。利用者への声かけの配慮、入浴時や排泄時の羞恥心に対する配慮も心掛けている。	一人ひとりの習慣や性格、環境などを把握し、人生の先輩として礼を忘れない対応を徹底されています。明るい声かけや気さくな声かけ、時には顔を寄せて話すなど、その時の気持ちに添って柔軟に対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	訪室してマンツーマンで話しを聞いたり、繰り返し説明をするなど一人ひとりに合わせた対応をし、満足のいく日常生活が送れるよう努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームとしての決まり事は有るが、一人ひとりの生活リズムを考慮し、利用者のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った入居者様の好みの服を服装をしていただき、また希望者様には訪問美容を利用していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な食事の準備は手伝っていただき、食事時も職員と一緒に食事を楽しんでいただいている。また、利用者の体型に合わせた椅子に座って頂き、食事が食べやすい工夫している。	法人の栄養士が献立を作成されています。栄養士は、夕食の調理を担当し、入居者の食欲や残菜から食事の味付けや形態好みなどを把握し、次の献立に反映されています。食事量や、献立の希望を聞き、入居者にとって食事が楽しみとなるよう取り組まれています。また、職員も検食し意見を伝えておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士による栄養管理や、食事量や水分摂取量がチェックできる体制をとっている。また、夜間のトイレ後の飲水には、フロアにペットボトルのお茶を置き、職員がお茶をすすめている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行っており、出来る限りご自分で行っていただいている。義歯のある方は必ず外して口腔ケアを行っていたき、夜間は各々義歯洗浄剤に浸けて保管している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中・夜間の排泄状況を見ながら、失禁パンツ+パットから、失禁パンツのみとするなど、その方の排泄パターンによって柔軟に対応している。</p>	<p>ホームには3か所トイレがあります。車椅子でも広いスペースが確保されていたり、男性用立位式小便器など、入居者の状況に応じた配慮があります。また、声かけや見守りなど、一人ひとりの習慣や状況に合わせた対応が行われています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取量の記録を見て、こまめな水分摂取を心掛けている。また、日曜以外毎日1階に降りて、体操やレクリエーションを行い身体を動かす機会を設けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には午後からの入浴としている。入浴の順番は、利用者の希望に合わせている。</p>	<p>入浴は個別に見守りながら支援されています。風呂場の床は滑らないように工夫し、安全面にも配慮しながら入浴が楽しめるよう支援をされています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりのペースを把握し、入居者の様子を見て休息をすすめるなどを行っている。また、室温や湿度にも気を配っている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	看護師が中心となり、情報交換している。また、誤薬の無いように、職員2名でチェックを行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	掃除・洗濯等は、出来るだけご自分で行っていただき、また洗濯干しやお盆拭き、ティータイムのメニュー聞き等の個人の役割も持って頂く様にしている。月2回の絵手紙教室は、とても楽しみにされている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	その日の体調や天候等を考慮して、職員とマンツーマンで外出し、希望に応えられるようにしている。	短時間でも、ホーム周辺の散歩や玄関脇の花壇の世話など外の空気を吸って気分転換できるよう支援されています。また、ドライブを兼ねて遠くに出かけることもあります。毎日でも出かけた入居者もいるため、外出頻度について課題と捉えておられます。	入居者の希望を尊重し、外出の機会を増やせるよう職員のアイデアを出し合いながら検討し、積極的な外出支援をされること期待します。
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	能力に応じた対応をしている。また、お金を所持している方は、所持金額も職員が、把握している。紛失した場合の家族の了承も得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば自由に電話出来る様にしている。また、絵手紙教室で作成した年賀状や暑中見舞い等をご家族に送っている。手紙のやり取りを楽しみにされている方や、FAXを利用されている方もおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設らしさを取り除き、建物が小さな町を想定して建てられており、設計段階から工夫している。また、入居者様に壁画を作っていたり、季節に応じた空間作りを行っている。	ホーム内は、モトーンで統一した、モダンな雰囲気です。廊下に椅子を置き、入居者同士会話や、一人でゆっくりしたりできるよう工夫されています。リビングには、全員の顔を見ながら会話ができるよう丸い大きなテーブルやソファが置かれ、入居者は思い思いの場所で過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	強化ガラスで1階が見下ろせる井戸型のテーブルを囲む、くつろぎのスペースを設けている。また、窓辺にイスを設置し、外の景色を楽しんだり、日光浴をされる入居者様もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室によって大きさや形が違い、また、本人のなじみの家具等を持ち込んで過ごしていただいている。	入居者は、筆筒、ベッド、テレビ、布団、ホットカーペットなど使い慣れたものを持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されています。居室のドアはそれぞれにピンク、黄緑、グレーで色分けされ、温かい雰囲気があり、間違い防止にもなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個別に合ったトイレを利用していただいたり、植物を植えて水をやる等、自分で行う事はやっていただくように、個別の対応を行っている。また、歩行器を使用して頂く事で、安全で自立した生活を送って頂いている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム呉ベタニアホーム長迫

作成日 平成 25 年 2 月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援を増やす。	利用者の希望に沿った外出支援を行う。	季節ごとの外出計画を作成し, 実行する。	12か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。